

年月日

概

要

昭二、四三

四七

二〇時頃池本隊は部隊の豫備隊となり前進陣地を撤退、当山附近に集結す
 敵の攻害は猛烈にしてカ三中隊（長谷木中尉）は八五高地に依り該敵に対し頑
 強に抵抗するも損害甚大にして激戦二日カ三中隊長以下殆んど全滅、遂に入五
 高地は敵に占領さる。連日の戦斗に大量の出血を強要されし敵は尚も攻害の手
 を緩めることなく田中隊（田中隊長）正面に攻害し来る。田中隊長以下一団とな
 り「ジヤナ」陣地に依り奮戦、敵に多量の出血を強るも我が損害も甚大にして
 七日十八時迄に其の兵力の四分の三を失ふに至り部隊は兵力を甚数の主陣地に
 集結戦線を整理す

四九

拂曉より敵約二、〇〇〇我が陣地正面に強行に攻害し来るも部隊長以下決死の抵
 抗に依り之を裏退せり本日の戦斗に依り之を裏退せり、本日の戦斗に依り敵の
 損害は相当大にして部隊陣地前には敵の死体多々放棄されあり当日の戦に依り
 青木隊（カ一中隊）は中隊長以下殆んど戦死傷其の戦斗力を失へり

四一三

部隊の損害大にして戦斗力は極度に低下せるに依り当日独歩二十三大隊独歩
 二七二、二七三大隊を指揮下に入らしめらる

四一五

旅団命令に依りカ一線陣地を独歩二十三大隊を基幹とする山本支隊移換之、又
 戦し前田東北高地線に移転し隊極力を以て動員すると共に同地に於ける戦斗を
 準備す

五一四

部隊は命に依り石積東北方一料の陣地を山本支隊に移換し、
 首里西南側方面の状況の悪化に伴ひ吉田隊を吉田北側高地を庄司隊を末吉町

五一五

西南方七、五高地を占領せしめ防衛を強化す

至日
四二三

末吉町北側及西南側よりする敵の攻害は遂次激化し吉田隊及庄司隊は連日死斗
 を続け敵に多量の出血を強要するも又我損害も甚大にて戦斗力は遂次低下せり
 部隊は前田北側地区に集結、戦力を増強中、独歩十一大隊に該地陣地を移換、
 平良町に転進、同地に於て独歩二十二大隊を指揮下に入らしめらる

二六

部隊は一部兵力（吉田隊）を以て石山東北方一料の高地に陣地を占領せしむ

二九

吉田隊（カ二中隊）正面の敵情の緊急するに依り庄司隊（青木、酒本各隊）
 ずれも夜間を強要す

五二九

部隊は師団命令に依り一時兵力（庄司隊）を独歩二十二大隊に配属せしめ主力は
 二十二時首里出発、高良に集結待機しありたるも命に依り主力の島尻転進を掩
 護すべく最真に前進、同地北方一料高地を占領、前糸任務を続行す

六一二

師団命令に依り部隊は島尻郡山城附近に集結、該地附近に於て最後の抵抗を行
 うべく陣地を補強、兵力を配備す

六一五

山城附近に陣地を占領し敵の攻害に備へありたるも興座沖座附近の情況緊急迫す
 るや師団命令に依り該陣地を独歩十四大隊に移換し部隊は興座東南方八百米高地
 に至り独歩四四旅団の指揮に入り同地附近に陣地を占領し猛攻し来れる敵と連
 日激戦死斗を続行するも遂に我に利あらず

六一九

部隊長以下生存者全員最後の斬込を敢行せり

独立歩兵第十四大隊略歴

年	月	日	概	要
昭	六	二八	北支山西省孟県に於て編成完結	爾後同地に於て警備及討伐
至	九	四一	京漢作戦に参加(同作戦に於て軍司令官より感状を授与さる)	襄城附近に於て警備
六	七		北支河南省周封に集結後動の急改編	
八	五		周封出港	
八	九		中支浙江省江湾に到着輸送準備	
八	一七		同吳松港出帆	
二〇	一	三一	中頭部浦添村中西に位置し本島防衛並に作戦準備	
至	三	三一	中頭部浦添村西原村宜野灣村中城村に移転	
至	三	三一	同地防衛並に作戦準備	
六	三	二二	戦斗、全員斬込を敢行す	
六	三	二二		

年	月	日	概	要
昭	六	二八	北支山西省壽陽縣に於て石兵団に編成替	部隊長 陸軍大佐 山本信輝
至	九	四一	北支山西省段村附近警備	
一	八	七	十八夏太行作戦に参加	
九			十八秋太岳地区作戦に参加	
至	九	四一	河南作戦に参加	
至	六	二〇	河南省新鄭密泉附近の警備	
至	七	二〇	上海に集結	
一	九	二二	上海出帆(曉空丸)	
八	一六		沖繩那覇港着	
八	一八		沖繩泉中頭部北谷村附近に陣地構築西河岸	
至	九	二一	沖繩泉島尻郡玉城村附近に陣地構築本島南端	
至	一〇	三一	沖繩泉浦添村 仲西 天久沢岬附近に陣地構築	
一	九	二一	新部隊長 陸軍少佐 飯塚豊三郎	
五	二〇		部隊は糸州に戦線を整理するや陣地占領陣地の補強作業を実施す	
六	一〇		新に作命に基き善屋武村に転進部隊の整理をなす	
六	一五		以降敵は最後の猛攻を企図し破裏に膚接し攻垂し来る	
六	一五		大隊は師団命に基き夕刻氷須北側に進出、攻垂し来る敵戦車を裏返したるも	

独立歩兵第十四大隊略歴

年月日

概

要

昭三、六、二〇

部隊本部は部隊長以下壮烈なる戦死を遂ぐ。今日各隊は全員斬込を敢行す。

九六十二師団軽重隊戦歴

年月日

概

要

昭一八、六、

六、三、八

編成下令

北支山西省太原第一軍司令部に於て編成完結

七、一

同日ヲ六十二師団の編組に入る

七、一

以降山西省東南地区の警備討伐等に從事

九、

十八夏大行作戦二部隊の一部参加

一〇、

十八秋大岳作戦に参加

一九、三、

十八秋冀西作戦に参加

三、二〇

京漢作戦参加の崑山山西省平陽潞陽東出衆

四、

黄河北岸黑龍潭に集結

六、

河南省攻略戦開始

六、

終了、羽玉城郡鄭州許昌嵩陽大金山平等泉洛河州谷長水鎮驢代等京漢作戦に参加

六、

京漢作戦に因り師団長より賞状を授く

七、

襄城景に集結 同地周辺の防衛及軍所要の兵器弾薬糧秣等の集積に任ず

八、

転進の爲襄城出衆兩封に集結

八、

編成整理

八、

上海に転進

年月日	概	要
昭二九、八、一六	吳松に於て采船	
八一九	冲繩県那覇港到着	
八、二〇	那覇港に上陸	
八	上陸後冲繩本島中地区の防衛並に作戦準備	
二〇、三	冲繩本島戦斗開始	
八、五	終戦	
九、三	沈没解除	

方六十二師田工兵隊部隊略歴

年月日	概	要
昭二八、六、六	編成下令	
六、二八	北支山西省陽泉に於て編成完結	
七	同日カ二十二師団の編組に入る	
七	編成完結と同時に山西省榆次に移転 同地に在りて山西省東南地区の防衛並に討伐等に任ず	
一八	十八秋冀西作戦参加	
一九、三	京漢作戦参加の滄山西省榆次出発	
一九、四	黄河北岸に集結	
一九、六	京漢作戦開始 黄河渡河作戦に依り初王城攻塵に参加以求鄭河許昌西方嵩原大金山 平等鎮、落河川谷、長水鎮、魏代等戦斗に参加	
一九、七	京漢作戦終了後豫東地区に集結 同地防衛	
一九、七	転進の爲養城出発 南封に集結	
八	編成整理	
八、一六	転進の爲南封出発 上海に集結	
八、一六	吳松に於て乗船	
八、一六	冲繩県那覇港外到着	
八、二〇	那覇港に上陸	

年月日	概	要
昭五、八、二〇	上陸以来中頭群西原村幸地に位置し中地区の防衛並に作戦準備	
一〇	現地初年兵入隊	
二〇、二	防衛召集者配属	
三	現地初年兵入隊	
三、三三	敵の進寇に依り沖繩本島戦斗開始	
二〇、五、二六	首里師団司令部附近に位置し戦斗参加	
六、一九	島尻郡喜屋武村山城に転進	
三二	島尻郡喜屋武村山城の戦斗に参加	
	玉碎 生存者斬込敢行	

第六十二師団 通信隊 略歴

年月日	概	要
昭一、八、二六	北支に於て編成改正月二十八日定結 同日才六十二師団の編組に入る	
昭一、九、二六	山東省兗州に位置し同地附近警備	
昭一、九、六三	京漢作戦参加のため同地出發 黄河北岸に集結 京漢作戦参加	
昭一、九、六六	河南省魯山鎮臨汝鎮附近警備	
昭一、九、七	転進の爲南封集結 編成整理	
昭一、九、八	上海に集結	
昭一、九、八、一六	中華民国浚縣出帆	
昭一、九、八、一九	沖繩県那覇港外に到着	
昭一、九、八、二〇	那覇に上陸	
昭一、九、八、二〇	沖繩県中頭郡浦添村前田に位置し同島防衛並に作戦準備	
昭一、九、三、三	首里市に移転 任務続行	
昭一、九、三、三	沖繩本島に於ける戦斗参加 師団長より賞詞授与	

独立歩兵第二十一大隊略歴

概

要

年月日

一四、七

創立

徐州会戦後膠海線警備の目的を以て周封に創立す

部隊長 中佐 以下六五〇名

独立混成第六旅団独立歩兵第二十一大隊と呼称 当時旅団司令部は山東省張店に在りて富隊のみ専ら西廳海線警備に任ず

作命に依り司令部駐屯地たる張店に、後動部隊長は其右山崎橋場(各中佐)を迎へ當時は陸軍予山学校教官たりし引地中佐より、総員九五〇名

昭和十六年度兵入隊と同時に編成強化され四ヶ中隊 中佐一、中少尉四〇、準尉五、下士官以下約一〇〇〇名格的野戦討伐部隊として新築足す

通称号第六二八二部隊なり

当時より將兵は一ヶ月中夜営に起居するは二週間足らぬにして残余は民家に又山野に伏し作戦討伐に終始せり。第六十二軍士階中將の創案せる完全包圍戦法を

行い戦果は日と共に上り部隊の勇名は華北に漲れり。

第六師団南方転進に伴い除州東方臨汝に進駐炎熱の候同方面の警備を全うせり

山東省莒県に移駐

引地部隊長戦死に依り当時独立混成第六旅団高級副官たりし飯塚火佐着任

新部隊長たる西林中佐を迎へ

一八、四、一三

一八、五、六

動員下令独立混成第六旅団解散

第六十二師団編成さる部隊は莒県より長途山西省澤州へ移駐す

部隊長 西林中佐 以下一千四百名

大隊本部より中隊歩兵砲中隊機関銃中隊を澤州に第一中隊を高平より第二中隊を四

中隊を陽城より第五中隊を二分屯せしめ約三百料平方の治安を維持し海拔一六〇〇

米を算する大行山脈の中に昼夜なき討伐の警備に精進せり

大本營作命に基き各中隊は澤州に集結三月とは謂へ山西の風は膚に冷たり、部

隊は澤州城を後に一路京漢作戦の途に着ける

黄河南岸霸王成陣地を掃蕩すの河南平野に戦い、四、五、六月と早や氣候は炎熱

の候と成り、一九、二九軍の精銳と斗ふつ、又泥濘、飢、餓に悩まさる。

三ヶ月に亘る大作戦を終了せり、死傷者約三〇〇名を算せり。

初旬部隊は周封西北方小宗鎮に集結、冲繩転進のため人員馬匹整理を行ふ

貨車輸送に依り北吳淞に到着当時西林中佐以下一、一〇〇名

連隊砲二大隊砲二重機八重迫撃砲八擲弾筒約二〇、輕機、約一二なり

吳淞出帆

那霸港着

部隊は中頭部泡瀬国民学校に本部と一部兵力を置き各中隊は兵舎なき為民家に

混住す 機関銃及小銃は全部九九式と交換され新に七挺機関砲一を支給され部隊

一八、六、三〇

一八、六、三〇

機関銃及小銃は全部九九式と交換され新に七挺機関砲一を支給され部隊

混住す

機関銃及小銃は全部九九式と交換され新に七挺機関砲一を支給され部隊

混住す

機関銃及小銃は全部九九式と交換され新に七挺機関砲一を支給され部隊

年月日	概	要
昭二九、二、七	ては歴史的なる兵器更新なり。	
二〇、三、五	沖繩島南端島尻郡知念岬に移駐。知念国民学校に本部を置く。情況逼迫のため軍警備重点たる中頭部伊祖附近に三度移駐。	
昭和一九年八月上陸以来将兵は已が墓地と化するやも知らず陣地構築に南国の暑熱マシリヤと戦つ突に全員形相の变化する迄に取斗せり。一本の十字標が一週周足らずにして二十種位滅るの事を見ても作業の度を語るに足れり。当時部隊長以下一千百七十名（除配属）		
二〇、四、一	米軍上陸	
四、一七	部隊として初めて米軍に攻害を加う	
六、二〇	独立歩兵ヲ二十一大隊解散	

独立歩兵ヲ二十二大隊略歴

年月日	概	要
昭二四、二、二	独立歩兵ヲ二十二大隊として徐州に於て編成さる。	
九、	山東省芝罘日照附近警備	
一五、〇	山東省広饒及寿光泉附近に於て作戦討伐警備	
一六、六	特に昭和十六年中原作戦に旅団より選抜参加し武勲顕なり	
一六、六	師団編成に伴ふ独立混成方六旅団（秋兵团）より方六十二師団歩兵方二十四旅団歩兵方二十二大隊として編入さる。	
六、	山西省潞安周辺地区に於て作戦警備	
二四、	河南省（京漢）作戦に参加	
六、	河南省襄城泉陽附近警備	
八、	上海集結 転進準備	
八、一六	涇谷出帆	
八、二九	沖繩泉那覇港着	
八、二〇	上陸	
八、三〇	中頭郡嘉敷西原仲岡附近に於て陣地構築並に警備	
一三、一〇	師団直轄首里防衛隊として首里防衛陣地の構築警備	
二〇、五、三三	沖繩戦の戦斗開始す	

独立歩兵第六十三大隊部隊略歴

年月日	概	要
昭八、六、六	羊北に於て編成替せらる。	
六、二六	編成完結 同時第六十二師団の編成に入る	
六、	山西省沁県に位置し同地附近警備	
一、四、	河南作戦に参加 同作戦に於て軍司令官より感状を授与せらる。	
六、	河南省魯山鎮臨汝鎮附近警備	
七、	疾進の急回封附近に集結 編成整理	
八、	上海に集結	
八、二六	涙谷港出帆	
八、二九	那覇港到着	
八、三〇	上陸	
八、三〇	中頭郡中城村大城に位置し同地附近の防衛並作戦準備	
一、三、一	島尻郡大里村山領井に位置し同地附近の防衛並に作戦準備	
二、〇、二、一	那覇市に位置し同地附近の防衛並に作戦準備	
三、三、三	敵の侵寇に依り戦斗開始	
八、一五	終戦	

第六十二師団病馬被略略歴

年月日	概	要
昭九、六、六	編成下令	
六、二八	山西省榆次に於て編成完結	
八、七、	第六十二師団の編組に入る	
八、七、	以降山西省榆次に位置し同省東南地区の警備討伐等に從事	
九、	十八夏大行作戦に参加	
九、	十八秋大岳作戦に参加	
一、九、三、	十八秋冀西作戦に参加	
三、	京漢作戦参加の爲山西省平陽泉陽泉出発 黄河北岸新郷南側に集結	
四、	河南省攻略戦に参加	
六、	京漢作戦終了	
七、	河南省襄城県に集結 同地防衛	
七、	疾進の爲城県出発 同封に集結	
八、	上海に転出	
八、二六	涙谷に於て乗船	
八、二九	沖繩県那覇港外到着	
八、三〇	那覇上陸	
八、	上陸後椰原に位置し、沖繩本島中地区の防衛並に作戦準備	

年月日	概	要
昭三、三、六、二二	冲縄本島戦斗開始 冲縄本島南端島尻郡糸洲に於て玉碎	

第六十二師団野戦病院略歴

年月日	概	要
昭三、六、六、七、一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	北支山西省に於て編成完結 同時第六十二師団の編組に入る 山西省泌泉に位置し同地附近の警備並に戦陣衛生業務 京漢作戦参加の爲山西省出發 黄河北岸に集結 京漢作戦に参加 師団長より賞詞を受く 襄城地区に集結 同地警備並に衛生業務 転進の爲 周封に集結 編成整理 周封出發 上海に集結 漢沽港乘船出發 冲縄那覇港外に到着 那覇市に上陸 冲縄本島中頭郡北谷村に位置し同島防衛並に作戦準備 冲縄本島中頭郡津覇に移駐 同地防衛並に作戦準備 中頭郡与那原に転進 同地防衛並に作戦準備 首里市に後転 同地防衛並に作戦準備 敵侵寇に依り冲縄本島戦斗開始 野戦病院戦斗参加 赤明より周辺大戦斗を展開し 奮戦乱斗混戦として日没に至る。戦斗は既に軍	

年月日

概

要

の防禦線内各縦深に及び隨所に死斗を反展し部隊將兵の大部は既に去つて再還るものなし部隊長は僅かに残る生存者を数組に別ち本夜深更を期して敵陣に突入し隨所に敵を裏砕しつつありしが、遂に部隊長以下壯烈なる戦死を遂げ統制ある戦斗は此処に全く終りを告ぐるに至れり。

才二十四師団司令部部隊略歴

概

要

年月日

昭一四一〇、
一九、八

才二十四師団司令部東安に創設
冲繩進駐に至る。

初代師団長 陸軍中符 黒岩義勝

二代 〃 〃 根本博

三代 〃 〃 雨宮 巽

一九、七、六
一三
一五

動員下令
完結
東安出発

二〇

下関到着

八一

下関出帆

八五
八八

冲繩本島那覇港上陸

中頭郡喜手納に師団司令部開設中頭部の防衛を担任す

敵機動部隊による空襲、甲号戦備下令戦斗配備に就く

敵船団冲繩本島周辺に現出 艦砲射撃開始

敵喜手納北谷正面に上陸

首里地方地区総攻憲に参加

島尻地区転進の爲首里出発

年月日

五、二八

五、四

四、一

三、二四

二、三、三

八、八

八、五

一、一

一、三

一、五

一、七、六